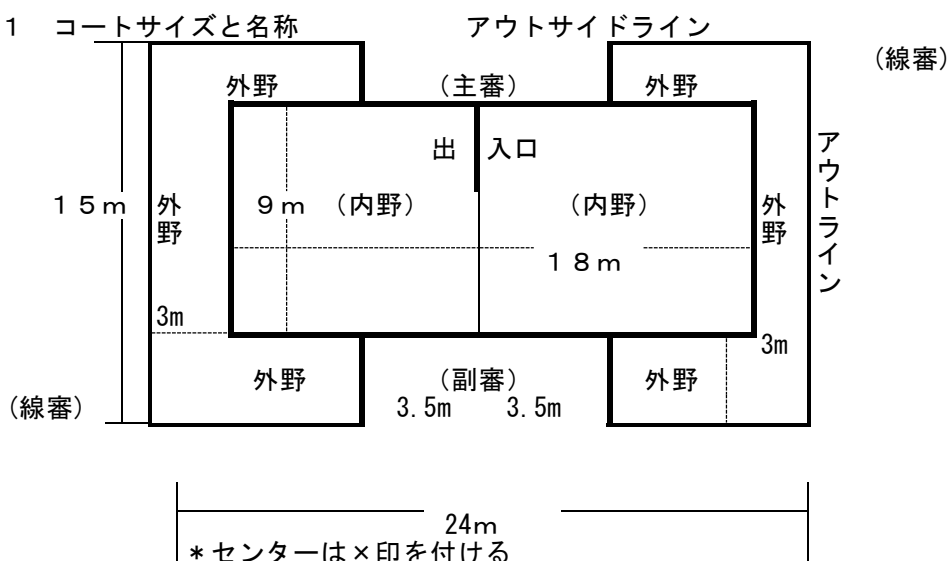


令和6年度小学生ドッジボール大会 (普及の部) 競技規則

1 コートサイズと名称



2 チーム構成 (資格と人数)

- ・ 監督大人1人、選手8人 (試合中交代なし)
- ・ 選手は小学生とし、男女混合チームも可。

3 競技時間

- ・ 1試合5分とする。 (ランニングタイム)

4 用具

- ・ 日本ドッジボール協会公認3号ボールを使用する。 (モルテンMSDB)

5 競技方法

① 自陣の選択

試合前に両チームの代表がジャンケンでコートを選択権を決める。

② 選手の権利及び位置

- ・ 試合開始時には、コート場に8人の選手が出場していなければならない。
- ・ 試合開始時外野には1人以上7人以下を配置することができるが、外野の選手が内野に入る場合は、相手内野の選手をアウトにしなければならない。
- ・ 内野でアウトになった者は、すぐに外野に出る。
- ・ 外野で相手をアウトにした者は、外野に1人以上いる時は直ちに内野に復帰できる。
- ・ 外野で内野に入る権利を持つ者がいる場合、外野が1人を割らない条件で実行する。直ちに行動しない場合、その権利は、失効する。
- ・ 外野で内野に入る権利を持つ者が相手をアウトにした場合、重複して内野に入る権利は生じない。
- ・ 内野に入る権利を他の者に譲ることはできない。

③ 試合開始

- ・ センターでのジャンプボールによってゲームを開始する。
- ・ ジャンプボールをした選手は、最初にボールをとってはいけない。
- ・ ジャンプボール直後の第1投で、ジャンプボールをした選手を攻撃してはいけない。また、ジャンプボールをした選手が攻撃してもいけない。

④ 攻撃

- ・ 反則に気をつけ、内外野の連係プレーなどで相手内野を攻撃する。

- ・外野は相手をアウトにした時、直ちに内野に入る。ただし、外野の人数 1 人を割らないこと。
- ・内野に入る場合は主審、副審の後ろを通過して入ること。
- ・外野から内野に入る者を故意に狙ってはいけない。

⑤ 守備

- ・相手の投げたボールが体（頭部以外）にあたり、ボールが床に着くまでに自分あるいは味方が捕球できない場合アウトとなる。また、相手が捕球した場合もアウトとなる。
- ・相手の投げたボールが 2 人以上にあたり、ボールが床に着いた場合は、最初にあたった 1 人がアウトになる。
- ・アウトになった者は、速やかに外野へ出る。
(アウトになった者が、わざとボールにふれた場合は相手内野ボールとなる。)

⑥ タイム

- ・競技中のタイムアウトは認めない。（事故等やむを得ない場合を除く）
※審判の判断よりタイムを取る。

⑦ アウト オブ バウンズ

- ・ボールがアウトライン、アウトサイドラインを越えた場合は、最後に触れた反対側のチームの内野ボールとなる。ただし、外野の選手が味方からのパスを手で触れた場合（オーバーライン等のファールが無く）、触れた選手のボールとなる。
その際、必ずボールを頭上にアップして主審のホイッスルで再開する。

⑧ 勝敗の決定

- ・時間内に相手の内野をすべてアウトにした場合、その試合を終了する。
- ・両チームとも内野が残った場合には、人数の多いチームを勝ちとする。
- ・内野に残った人数が同じ場合は、Vポイント（サドンデス）により、どちらかのチームの一人が当てられるまでゲームを延長し勝敗を決定する。

⑨ 反則

反則があった場合には、主審がボールの支配権を指示する。支配権を持ったチームがボールアップし、主審のホイッスルで試合を再開する。

オーバーライン

- ・投球し、その動作が終わるまでに、ラインを踏んだり、越えたりしてはいけない。捕球の場合も同様とする。反則の場合は、相手内野ボールとなる。

オーバータイム

- ・味方同士のパスは 4 回までとする。反則（遅延行為）の場合、相手内野ボールとなる。

スティーล ザ ボール

- ・相手コートにあるボールをとってはいけない。ただし、ボールが空中にある場合は、この限りではない（相手コート内でドリブルは反則）。反則の場合は、相手内野ボールとなる。

ダブルパス

- ・同一チームの内野同士、外野選手同士がパスやボールの受け渡しをしてはいけない。反則の場合は、相手内野ボールとなる。

その他

- ・判定に対する審判への抗議は受け付けない。
- ・抗議した場合は、アウトもしくは退場とする。

⑩ 応援

- ・アリーナには、選手 8 人と監督 1 人のみ入ることができる。よって、応援の者は 2 F 観客席からの応援とする。
- ・2 F 観客席からの判定に対する審判への抗議は受け付けない。
マナーが守れない場合は、そのチームに警告等の罰則があたえられる。